

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371500915
法人名	万博メディカルケアサポート株式会社
事業所名	グループホーム やすらぎの里梅森坂
訪問調査日	平成19年10月4日
評価確定日	平成19年11月21日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2371500915		
法人名	万博メディカルケアサポート株式会社		
事業所名	グループホーム やすらぎの里梅森坂		
所在地	名古屋市中区東区梅森坂一丁目537番地 (電話) 052-704-7700		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(平成19年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年11月28日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	25 人 常勤 11人, 非常勤 14人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	24,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年9月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.06 歳	最低	69 歳	最高	91 歳
協力医療機関名	医療法人中村クリニック・坪井歯科医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新興住宅地の一角にあり、周りにはまだ緑があちらこちらに残って穏やかで静かな環境にある。玄関前にある広い菜園では野菜をつくり、食材として食卓に上ることもある。ホームの1階では猫が飼われており癒しになっている。職員は認知症介護のプロとしての勉強やスタッフでの情報の共有に努めている。個人を尊重し入居するまでの生活環境を大切にゆったり過ごせるように配慮している。また、身体機能維持のために毎日体操したり、家事の参加による生活リハビリも行われている。入居者が徘徊している時には地域の人が連絡してくれたり、ホームのことを紹介してくれたり等、理解し受け入れてもらっている。今後は、地域とホームが双方向的な関係が築けるよう取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果について運営推進会議では特に伝えていないが、ホームだよりを毎月回覧板で回してもらおう等、地域とのつながりの中で理念の啓発改善に取り組んだ。また、散歩や外出、喫茶店への外出、地域の敬老会に参加する等ホームに閉じこもらない生活の改善に取り組んだ。</p> <p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>全部記述形式で大変な面もあったが、全職員で取り組んだ。自己評価や外部評価を通しサービスの質について考える機会となった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>11月より運営推進会議は2カ月毎に開催され、ホームの取組状況を報告し意見を交換している。参加者は入居者家族、民生委員、地域の他グループホーム、法人代表、ホーム管理者で討議が進められている。地域の敬老会や子供会祭りにも積極的に参加するようになってきており、今後は町内会長や自治会長、民生委員等地域の方に呼びかけて地域密着型の役割を果たしていく事を期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>要望、苦情の申し立ての連絡先や担当者を明示している。家族の来訪時には近況報告だけでなく、運営に関する意見や要望など、何でも話せる関係を築くよう努めている。また、苦情を聞いた職員はすみやかに報告、処理対応し反映させるよう努めている。来訪の少ない家族にも積極的に働きかけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入して回覧板を回してもらったり、地区の敬老会に参加したり、清掃活動には入居者と共に参加している。また、地域の避難訓練も見学した。入居者が徘徊している時には地域の人が連絡してくれたり、ホームのことを紹介してくれたり等、理解し受け入れてもらっている。今後は、ホーム行事への招待など積極的な呼びかけをし、双方向的に地域と支えあう関係づくりに期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく ゆったりとした やすらぎのある生活」を基本理念とし「人間尊重のケア。介護度を選ばない介護。ターミナルケアを目指す」という運営理念を「ケア理念」と共に玄関やパンフレットに明示している。		地域密着型としての理念は特に掲げていないが実際に重度の人を受け入れたりターミナルケアを目指し看取りも行う中で地域密着型に結びつくと考えている。これらをふまえ理念に盛り込まれることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行う勉強会では理念に基づき確認し共有している。常日頃のケアにおいてもその人のペースで、否定的な言葉は使わず、私語は慎む等、介護の価値観の統一を念頭におき一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して回覧板を回してもらったり、地区の敬老会に参加したり、清掃活動には入居者と共に参加している。また、地域の避難訓練も見学した。保育所の園児や中学生とふれあう機会もあり、入居者も楽しんでいる。入居者が徘徊している時には地域の人が連絡してくれたり、ホームのことを紹介してくれたり等、理解し受け入れてもらっている。ホームの行事（花火大会、餅つき）には、回覧板で地域に知らせ近所にはチラシを配り参加を呼びかけた。参加までには至らなかったが今後も継続していきたいと考えている。		地域の一員として地元の活動や地域の人々との参加交流に取り組んでおり、地域の方にホーム行事への招待を呼びかけた。参加までには至らなかったが、地域とは良好な関係であり、今後も継続して取り組み、さらに地域と支え合う関係づくりに期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を通しサービスの質について考える機会となった。前回の評価結果について運営推進会議では特に伝えていないが、ホームだよりを毎月回覧板で回してもらう等、地域とのつながりの中で理念の啓発改善に取り組んだ。また、散歩や外食、喫茶店への外出、地域の敬老会に参加する等ホームに閉じこもらない生活の改善にも取り組んでいる。		評価の意義の理解と改善への認識においては、職員によって温度差があるため、全職員が評価のねらいや活用方法を理解できるよう周知されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>11月より運営推進会議は2カ月毎に開催され、ホームの取り組み状況を報告し意見を交換している。参加者は入居者家族、民生委員、地域の他グループホーム、法人代表、ホーム管理者で討議が進められている。地域の敬老会や子供会祭りにも積極的に参加するようになってきた。</p>		<p>運営推進会議の場で前回の外部評価結果の報告はしていないので今後は意見を聞き、地域密着型の役割を果たしていく事を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護認定調査の代行時や地域包括支援センターでの相談を通じてある程度の情報交換はしているが、さらに積極的に連携していきたいと考えている。</p>		<p>意識的にホームの実情や取り組みを伝え、市と共有し共に、サービスの質の向上に向けての取り組みを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回ホームだよりで入居者一人ひとりの日常生活のひとこまに加え身体状況も知らせている。また、写真も送付している。「家族の愛が大切」という思いから訪問の少ない家族には電話でその思いも伝え報告している。金銭管理については預かり金の出納帳をチェックをしてもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望、苦情の申し立ての連絡先や担当者を明示している。家族の来訪時には近況報告だけでなく、運営に関する意見や要望など、何でも話せる関係を築くよう努めている。また、苦情を聞いた職員はすみやかに報告、処理対応し反映させるよう努めている。来訪の少ない家族にも積極的に働きかけている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人職員の場合紹介し、辞める場合も混乱のないよう配慮している。新人職員は入居者に受け入れられるまでは馴れた人と組んでケアにあたるなどして入居者に混乱がおきないように配慮している。また、新人研修の際、入居者の不安な気持ちを理解するため何もしないで半日ソファに座って過ごしたり、ボランティアとして1日入ってもらって馴らしの期間を設けるなどの工夫をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月座学で認知症などの勉強をしており、仕事として保障し職員が自覚を持って参加できるようにしている。欠席者には資料を渡している。今後は、名古屋市グループホーム協議会の研修会等、外部研修にも順番に参加を促し、レポートを提出してホーム内で勉強したり職員全員で共有していくことを検討している。		研修計画を作り研修の機会を均等にし、その報告を共有する為、回覧や発表の場を設ける工夫や段階的研修の実施を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会や名古屋市介護サービス事業者連絡研究会の2カ月に1回の研修会に参加し、グループディスカッションや他ホームの見学を通じ交流、情報交換しサービスの質の向上に努めている。また、同地区のグループホームとは運営推進会議を通じ交流がある。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居もあるが説明し納得して入居してもらうよう努力している。家族や担当ケアマネジャー、病院のケースワーカーからも情報を得て日常生活動作や身体状況、介護状況等を把握、検討し入居して不都合や不安のないよう努めている。また、アセスメント後に自宅を訪問し家の写真(トイレの位置、居室の様子)を撮ったり生活歴を聞きホームでの生活が馴染みやすいように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントで生活歴や好きな事、嫌いな事を把握し、年長者として尊敬し、その生き様やその人らしさを尊重している。入居者と一緒に過ごしながらか学ぶことも多く、共に過ごし支えあう関係がある。ケースカンファレンスでは共に生活する仲間として、入居者の立場にたって介護しているか常に話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントで本人の背景や思いを把握し、普段の日常生活の中で常に本人の思いや意向を把握し、理解するよう努め、その人らしい生活が実現できるようにしている。ケアカンファレンスの中ではうまくいった事例（成功例）を話すなどして共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの毎日の生活から様子を把握して作成し、家族に説明している。毎月のケアカンファレンスで気づいたこと、新たな発見や問題点などを職員全員で話し合い介護計画に反映させている。今後は本人、家族にもケアカンファレンスにできるだけ参加してもらいより本人や、家族の思いに添った介護計画の作成を目指している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者、計画作成担当者、職員が一緒になって毎月のミーティングやケアカンファレンスで情報を共有しあい現在の計画と合致しているか検討している。実情と見合わない計画になっている場合はその都度に変更して家族に説明している。1年を通しての継続はありえないと考え1年に1回は必ず見直しを行っている。充実したカンファレンスの場において常に新しく、一人ひとりの思いを深く考えて介護計画の見直しに取り組んでいる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医受診時、家族で対応できない時などは介護タクシーで対応もしている。看取りについて積極的に対応している。非常勤看護師が必要時は時間外であっても直接、または電話で状態を把握し対応している。入院の回避、限られた医療行為などが可能であり本人と家族に柔軟な支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望をふまえかかりつけ医の受診について可能である。基本的に家族に付き添ってもらっているが対応できない時は職員、介護タクシーで支援している。受診時の報告等については看護師が勤務している時は看護師が、そうでない時は職員が説明を受け個人カルテのケース記録に記している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に重度化した場合や看取りについて本人、または家族に伝え「ターミナルケアを目指します」という理念に基づきケアをしている。段階に応じて話し合いを関係者ともち、主治医も柔軟な対応が可能である。医療処置を必要としない場合と職員の受け入れ状況が整っていれば最期まで支援が可能である。職員、主治医も含めて全員でその人の思いにより添った看取りの方針が共有できている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明書には「個人情報使用同意書」に目的等が明記され入居時に署名、捺印をもらっている。個人カルテ、記録物については鍵をかけて保管し十分に注意している。声の大きさ、トーンに留意してさりげなく個室に誘導し更衣をするなど、一人ひとりの尊厳を大切に日々関わっている。訪問時にも静かにさりげなく気配りや誘導をしている様子が見られた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムをできるだけ送って欲しいという思いから、朝食を遅らせて摂ってもらうことについては時間を決めている。その人の希望に合った支援は、できるかぎり対応するよう努めているが、職員にゆとりがない時は難しい。喫煙は決められた場所で、お酒は希望あれば可能である。訪問時は外出する人、ソファで寛ぐ人、お手伝いしている人など自由に過ごしていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が高い入居者が多いが、部分的や簡単な準備などその人ができることに参加してもらっている。広告を見て食べたいものがあればその素材を使ったり、季節の食物を取り入れたりしている。毎日入居者と一緒に翌日の食材を購入している。好物を取り入れたり、好みでないものには代替のものに変更したりと食事が美味しくいただけるように支援している。馴染みの箸、湯のみを使用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、入浴は何時でも可能である。体調不良や気分がのらなかった場合でも1,2階の入居者が自由にどちらでも利用でき入浴が提供できている。2時間かけて入りたい人には入ってもらい、お気に入りの職員と一緒に入浴することもある。入浴を拒否する場合は上手くいったケースを参考にして無理強いはせず清拭等に変更している。汚してしまった場合はシャワー浴で随時対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を参考にして各々が役割を持ち、活力につなげた支援をしている。場面づくりも日々の生活の中から適切に引き出している。抹茶たてが得意な方には、運営推進会議の時や時には、職員達にお茶をたててもらったり、長唄が得意な方には誕生日会等に発表してもらったりしている。生活レクリエーションを中心に一人ひとり役割を持つことで自信につながり安定した日々が送れている。職員によってその人に合った喜びのある支援ができている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、コンビニエンスストアへの欲しいものの購入、近くの店への外食、喫茶店、食材の購入等はほぼ日常的に、その人に合った支援をしている。車椅子の人でも外出できるよう、その日の希望に合った支援に心がけているが、職員にゆとりがない時は難しい。今後、季節もよくなるので戸外に出かけられようとしていきたいと検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は常に開錠していて開放的な玄関まわりとなっている。外に出かけたい思いを職員全員で話し合ったり、その時のサインを見逃さないよう日々のケアに関わっている。一緒に付き添ったり、後から見守りをしたり、近所の人達の協力も得ながら取り組んでいる。職員が鍵をかけないケアの大切さを理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隔月に入居者、職員で避難訓練を行っている。防災頭巾を着用して行って入居者も頭巾をかぶると外に避難するという意識が定着している。消防署からは消火器の使用法、その他指導を受けているが消防署、地域の住民達とは訓練を行っていない。一部の職員が救急法の指導を受け全職員に伝えている。備蓄品は3日分の飲料水、乾パン等を期限を確認して確保している。		消防署、地域の人達の協力などを得ながら安全に避難ができるよう可能な限りの想定で訓練を試みることに期待したい。昼間、夜間では状況が違ふこともありこれらも含めて検討された。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に栄養士に献立を見てもらうということはないが、糖尿病食やカロリー計算について職員は勉強している。水分は1日1000mlを目安として、医学的に確認が必要な人や医療的に制限がなくても十分摂れない入居者に対しては留意して支援している。入浴後にはポカリスエットを摂ってもらい、カウンターには何時でもお茶が飲めるようにしてある。キザミ、ミキサー食の提供も行っており、状態に合わせた支援をしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な玄関で風通しも良い。共用部分には絵画が掲げられてあり壁などへの飾りは多くなく整然としている。季節感を採り入れた飾り等は特にない。移動可能な畳ゾーンは気ままに休んだりできる。洗面所の脇には折りたたみ式の手すりが備え付けられて安心して洗面したり介助ができる。職員は危険性を早く察知するためにスリッパ等は履かない。日中は入居者が静かに、落ち着いて過ごせるよう、しっかりと掃除は夜間帯に職員が行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置は本人の思うように安全、移動等を考慮して備えられている。電話、テレビ、仏壇、遺影、好きな本があり使い慣れた好みのもので整えられている。窓からの外の眺めは庭の花や緑が見える。部屋の入り口には漢字で名前が書かれ、部屋を間違ふこともない。写真、誕生日の色紙、入居者同士の合同写真が飾られその人に合った居室となっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。